

NEWS目次

赤煉瓦ネットワーク 半田大会特集！！

- ご挨拶
- シンポジウム・各地の活動報告
- 懇親会
- 見学会
- COAの皆さんのコメント

今後の事業計画

- ① ひな祭り開催
- ② 東典夫展 2/8～3/5
(ニューヨークで成功した日本人画家)
- ③ 特別展

■ ご挨拶

2016年11月5日・6日に開催しました赤煉瓦ネットワーク半田大会は、皆様方のご協力のお蔭で無事終わることが出来ました。改めてお礼申し上げます。

今大会のテーマを「赤煉瓦遺産を活かしたまちづくりについて語り交流する」としました。全国の赤煉瓦ネットワークの会員が取り組む赤煉瓦建物は、一部では取り壊された所もありますが、多くは保存され、その中でも活用に至っているところも数多く出ています。半田も2016年に本格活用が実現しました。今後、保存された赤煉瓦建物をただ保存するだけではなく、まちづくりの主要施設として活かしていく必要があると思います。

半田大会では5団体に活動報告をしていただきましたが、まさに各地とも真剣にまちづくりに取り組まれており、生々しい報告が数多くありまし

た。懇親会も含め、活発な意見交換が行われ、今回のテーマの目的は果たせたのではないかと考えています。当倶楽部の会員が、リニューアルオープン後の方向性を模索する上で大変参考になったと思っています。

2017年は敦賀大会です。半田から大挙して伺いますので、よろしくお願いします。(馬場記)

■ シンポジウム・各地の活動報告

11月5日14時、いよいよ赤煉瓦ネットワーク半田大会が開幕です。100名を超えるネットワーク会員やご来賓、そしてクラブ員が着席する中、司会の石田真紀さんの紹介で平岡理事が開幕宣言を行いました。

そして我が倶楽部の馬場理事長が主催者を代表してごあいさつ、ご来賓を代表して榊原純夫半田市長、澤田勝半田市議会議長からお言葉を頂戴しました。

シンポジウムに先立つ基調講演は半田赤レンガ建物の創建工事に携わり、今回の耐震補強工事を手掛けた清



水建設(株)名古屋支店の上席マネージャー宇野康則様から「我が国のビール醸造初期の遺構」～半田の先人たちの情熱を伝えるカプトビール工場～と題して半田赤レンガ建物について語っていただきました。

休憩をはさんでシンポジウムを行い、赤煉瓦倶楽部半田の永田創一副理事長がコーディネーターを務め、全国各地の5団体が赤煉瓦遺産を活用したまちづくりをテーマに活動報告を行いました。

1-1 NPO 法人門司赤煉瓦倶楽部

事務局 竹中 康二氏

2004年に旧サッポロビール九州工場跡地に残る建物の保存・活用を目的として設立、活動を続けています。



工場跡地には、当時の設備が残っており、とくに麦芽粉碎機・分級機などは貴重なものです。活用方法は、工場をそのまま残し見学できて、市民の隠れ家のお酒が飲み・生演奏が聞ける憩いの場をつくり交流の場所を提供しています。土地の一部は、分譲マンションが建設され活用されています。

近くには門司港があり、門司レトロ建物保存されており年中観光客でにぎわっています。

1-2 奈良少年刑務所を宝に思う会

作家・詩人 寮 美千子氏

寮氏の夫・松永洋介氏の代役で寮さんが急きょ発表されました。



廃庁が決まった奈良少年刑務所が、明治時代、大日本帝国政府が一等国であることを西洋諸国に証明するために、国の威信をかけて五大監獄の一つとして建てた経緯や、寮さんと刑務所との関わり、そして赤レンガで出来た奈良少年

刑務所のすごさ・素晴らしさを、スライドを使って熱く語ってくれました。

重要文化財に指定されたこの赤レンガ建物は、100年あまりが経過し、耐震機能に問題があるとわかったので、今後の活用方法や耐震補強工事などが検討されています。

1-3 NPO 法人街・建築・文化再生集団

(略称 RAC) 石田 真弥氏

1994年4月設立以来、群馬県内各地に残る養蚕集落を中心に「絹遺産を地域づくりに活用する」ことをテーマに研究集会を開催し2009年からは県外に開催地を求め、地域連携の輪を広げ、地域づくりの啓発活動を行ってきました。

代表とされる建築物に、ユネスコ世界遺産にもなった富岡製糸場があります。

最近では前橋市内に残る絹糸倉庫や赤レンガ建物をマップ化し、活用方法を探るなど、県外にも活動や連携の輪を広げて活動を進めていることを発表しました。

1-4 NPO 法人 THAP(タッフ)

理事長 池田裕太郎氏

2012年11月に赤煉瓦ネットワーク敦賀大会を開催後の2015年に赤煉瓦倉庫が耐震化、改修工事を終え、巨大ジオラマと地元食材のレストランを備えた敦賀港周辺の観光商業施設をオープン。同年、旧北陸線レンガ造りのトンネル群11件が国の有形文化財に登録されました。

敦賀のまちづくりが着々と進んでいること、2



017年の赤レンガネットワーク敦賀大会開催の際には、新装なった「赤レンガ倉庫」や「旧北陸線トンネル倉庫群」を見ていただきたいとアピールされました。

1-5 一般社団法人赤煉瓦倶楽部半田

副理事長 宮原 一明

赤煉瓦倶楽部半田は「半田赤レンガ建物(旧カプトビール工場)の未来に向けて」をテーマに、

リニューアルオープン後は、赤レンガ建物と明治の旺盛な起業家精神を顕彰し、後世に引き継ぎ、これを活かしたまちづくり事業を行う基本方針を定めて、2015年以降に実施した活動内容を報告しました。

具体的には、赤レンガ建物のガイドの仕組みを検討し提案したこと、倶楽部主催の「創建時の赤レンガ展」の開催、復刻大正カプトビールの発売やカプトビールグラスの発売、そして「赤レンガ探検隊」の実施と成果、また市内の季節行事と連動したイベント開催や写真展への協賛と、盛りだくさんのお話しをしました。

締めくくりは、活動の継続とまちづくりへの貢献をするために行政をはじめ地域の連携が大切な事、若い力の活用と協働がポイントと締めくくりました。

■ 懇親会

シンポジウム終了後、懇親会場となります施設内「カフェ・ブリック」にて盛大に懇親会を開催しました。



もちろん主役はカプトビール（やっぱり明治が人気）ですが、おもてなしはCOAの女子学生が赤前掛け赤タスキ・矢絣で大活躍、ピュッフエスタイルで本場のドイツ料理（アキム・フーガ）を中心に用意しました。

おまけに回転寿司もお目見えした会場は、総勢100名を超える参加者で埋め尽くされ、隣人と肩



が触れるほどの賑わいと熱気に包まれました。「知多酒で乾杯」でスタートし、「カプトビールで乾杯」へと、途中飛び入りで、コーヒールンバならぬカプトビールンバ?楽しいライブもあり、初披露の馬場理事長のダンスも飛び出して、会場は大盛り上がりとなりました。

セレモニーでは、ご来賓の半田商工会議所の小



栗副会頭のご挨拶、次回全国大会開催地（敦賀）へのフラッグも無事手渡され、ステージにてご参加いただいた方々のご紹介や活動報告をご披露していただきました。

終盤はホロ酔いも手伝い、なかなか口に出せない（愚痴ではない）各地文化活動の現状など夢を語り、仲間として有意義で楽しい交流の場が出来き、全国の輪がまたひとつ大きくなりました。

（左右木記）

■ 見学会

11月6日半田大会も2日目、昨日の懇親会・2次会で盛り、少々飲み過ぎ?の面々が8時30分に赤レンガ建物に集合し、抜けるような青空の下で見学会に出発しました。

一行はA班・B班に分かれ先ずは赤レンガ建物の2階を特別に見学。耐震改修は2階利用を考慮した改修ではなく、少々残念に思いました。そして、紺屋海道をテクテクと半田運河方面に、秋葉北講の赤煉瓦の玉垣・新美眼科医院の旧本館等を



見て東へ、小栗家住宅ではご当主の特別の計らいでトークを拝聴しましたがお話しの途中で失礼しMIMへ、前回半田大会時は酔の里でしたが、生まれ変わったMIMを堪能して記念撮影。

魚太郎の2階で揃って昼食をいただき、午後は



国盛酒の文化館・半六庭園・JR半田駅の油庫・跨線橋、中埜又左工門家住宅・中埜家住宅（半六別邸）・山車蔵・摂取院と寄り道をしながら赤レンガ建物に帰着。半田市中心部の見所を全て楽しみ、心地よい疲労を感じて解散式に臨みました。次回は敦賀大会、皆さんとの再会を楽しみにしています。（宮原一明紀）



■ COAの皆さんのコメント

今回の半田大会では赤襷・赤前掛けで大会の花としておもてなしに大活躍したCOAのメンバーやOBの皆さん、大会に参加して大いに交流したり大人の体験をしたり、見学会では赤レンガ建物の素晴らしさ、半田の街を再発見したようです。皆さんのコメントをご紹介します。

日本福祉大学 健康科学部 福祉工学科 バリアフリーデザイン専修 2年 岩本小生

私は2年生で2回目の参加です。去年は招待される側でしたが、今年は歓迎する側として半田赤レンガ建物で皆様と共に参加しました。

私は半田市出身半田生まれなので半田の事は結構知っているつもりでしたが、私が知っているよ

りもずっと半田は魅力的でした。特に酒の文化館とミツカンミュージアムは初めての体験ですごく楽しませていただきました。

二十歳になったばかりの私には日本酒は初めて



で、度数が強くて大丈夫かなと感じましたが、地元のお酒を飲む機会はあまりなく、このような貴重な機会を設けていただき感謝します。

また、ミツカンミュージアムは初めて訪れましたが、建物の中の全部の規模が大きくてまた行きたいと思うほど楽しい空間でした。

懇親会の料理はバイキングでどれもとても美味しく赤レンガの中で夢のような空間でした。

来年は招待される側ですが、受け身ではなくてこれからも皆様とともに半田の魅力を発信して行けたらと思います。

日本福祉大学 健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 1年 原 奈津季

全国大会が半田赤レンガ建物で行われました。

その中で最も印象に残った話があります。

1日目の赤煉瓦ネットワークの活動報告の際に、「奈良少年刑務所を宝に思う会」という報告に特に興味を持ちました。

最初、刑務所を宝に思うことなんてありえないと思っていましたが、話を聞いていると明治の五大監獄(千葉・金沢・奈良・長崎・鹿児島)であると分かりました。

どうしてこんなに豪華な建物が建ったのかというと、前まで使われていた牢屋はとても粗末なもの



で、受刑者の人権が守られない牢屋だったそうだ。さらに、日本が近代国家に生まれ変わろうとした時代の、人々の思いを形にしようとした結果でもあります。

建て替える際に、耐震機能を重視し、そこに使われたのが赤煉瓦。重厚なのに威圧感のないやさしい建物になりました。このように時代に合っていて、人のためを思って作られた建物だからこそ、今もなお愛されているのだと感じました。

そして、そんな建物に赤煉瓦が使われていることに私は誇りをもちたいと思いました。

私は1年生で赤レンガについて知らないことばかりですが、もっともっと赤煉瓦について知りたい。

日本福祉大学 健康科学部 福祉工学科 健康情報 専修2年 寺澤朋香

今回の赤煉瓦ネットワーク半田大会は、前回とは違っておもてなしをする立場でした。舞鶴大会が終わった時に、この経験を半田大会に生かしたいと言っていました。私なりに良いおもてなしが出来たのではと思います。カプトガールとして1年半が経ち、赤前掛け・赤袴にも慣れ、赤煉瓦のこともカプトビールのことも少しずつ詳しくなってきました。しかし、シンポジウムでどのように建てられたのかなどを聞いて、まだまだ私が知らなかった赤煉瓦の歴史がたくさんあるのだなと感じ、そんな歴史を全国の皆さんに知ってもらうことができ嬉しかったです。半田赤煉瓦の2階を見させてもらったときは、建物の構造がよくわかりすごいなと思いました。



懇親会では、全国の赤煉瓦に携わる方たちと色々なお話ができ、とても良い経験になりました。赤煉瓦倶楽部半田の方たちとの絆もさらに深まった気がします。

とても楽しく、勉強になった半田大会でした。

日本福祉大学 健康科学部 リハビリテーション学 科 作業療法専攻1年 日置友利亜

二日間の赤煉瓦の活動への参加は、たくさんの知識を得た非常に充実したものとなりました。

講演会を聞いて、地域ごとにどのような活動をし、地域の活性化に努めているかを発表する集りに参加して、地域それぞれ違った活動をしていて、地域によって異なった良さが出ていていると感じました。



私は「ミツカン」というとお酢のイメージしかなく、あまり興味がありませんでした。でも、MIMを見学してお酢の歴史や「ミツカン」の語源の由来を聞くと、とても興味深く、ミツカンのイメージが変わりました。当時の作業着を目にし、食文化を学び、さらに実体験もできたことから記憶に残るものになりました。

また、カプトビールについて「ミツカン」は明治時代にビールを作っていた。「ミツカン」はお酢だけでなく、カプトビールを作ったということ、半田赤レンガ建物との繋がりに初めて気付きました。

赤レンガの建物は明治時代に建築され、今も半田の地に残されています。取り壊しの計画があったそうですが、残したいという強い意志を持った人々が存在したことで、今も残っています。私も何事にも強い意志を持って臨んで行こうと思いました。

私はこのサークル行事を通して、いい経験ができたと感じています。大学のある半田市についてよくわかったし、赤レンガ建物の歴史を知れて良かったと思っています。これからももっと沢山知りたいと感じました。

日本福祉大学OB 木村哲人

今回で参加が2回目となりましたが、赤煉瓦ネットワーク半田大会が開かれました。

昨年は招待される側としての参加でしたが、今回は招待する側として、各地の赤煉瓦倶楽部の方々をお招きすることができました。

半田の「ここがすごいぞ!」というところを皆様に見ていただけるよう一番アピール出来たのは、私の中ではやはり明治のカプトビールに続き大正のカプトビールの発表かと思いました。各地の方々皆さんに飲んでいただき、歴史あるカプトビールの美味さと大切さが実感できた時です。

また、見学会ではミツカンミュージアムをはじ

め半田の見どころを巡って半田の歴史を各地の方々から知っていただくと同時に、私も今回の大会を通して多くの事を知ることが出来て、良い経験になりました。

今後も倶楽部員の一人として、半田赤煉瓦建物の魅力を伝えてゆきたいと思います。

■ 定 款 (抄)

【法人の名称】

一般社団法人赤煉瓦倶楽部半田

【目 的】

当法人は、貴重な旧カプトビール工場の半田赤レンガ建物及び旺盛な起業家精神を顕彰するとともに、後世に引き継ぎ、それを活かしたまちづくりに関する事業を行うとともに、赤煉瓦に関係するネットワークと連携し、赤煉瓦を活かしたまちづくりを支援する活動を行い、もって社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする。

【会 費】

- (1) 入会金 1,000 円
- (2) 年会費
 - ① 個人会員 2,000 円
 - ② 法人・団体会員 10,000 円
(団体は 10 名以上)
 - ③ ボランティア会員 無料

【活動年度】

毎年 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日

総会は、毎年 1 回開催する

【運 営】

当会の運営は理事会で行う。運営にあたり次の役員を置く。

- (1) 理事 5人以上
- (2) 監事 1人以上

理事のうち、一人を理事長、2人を副理事長とする。

【事業年度】

毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの年 1 期とする。

今後の事業計画

① 蔵のまち雑祭り開催

2 月 25・26 日(土・日)、3 月 4・5 日(土・日)
クラブハウス C・サロン他にて
雛飾りの展示、体験コーナー、グッズ販売促進等

② 東典男展を共催

2 月 8 日(水)～3 月 5 日(日)
企画展示室にて
「東典男はマチスを超えたか」をテーマにニューヨークで成功した日本人画家の作品を展示

③ 特別展を開催

4 月 22 日(土)～5 月 21 日(日)
企画展示室にて
「全国の赤煉瓦建物ぶらり旅
～文明開化の象徴とされた全国の貴重な
赤煉瓦建物を巡る～」と題し写真を展示

■ 編集後記

会報の校正と編集を初めて行い四苦八苦、次号は新しい紙面のテンプレートをつくらねばと痛感しました。

さて、半田赤レンガ建物の常時公開が実現し、赤煉瓦ネットワーク半田大会を開催し盛会のうちに無事終了しました。倶楽部員はじめ関係する皆さん、準備やおもてなしにご尽力いただきありがとうございました。皆が楽しんだ良い会であったと思います。全国各地の活動報告を聞いて、半田赤レンガ建物と倶楽部の現状を見て、未来に向けた活動は、世代を超えて共に楽しく活動できる場をつくり、半田赤レンガ建物の価値を長く伝えて行かなければいけないと感じました。
(宮原)